

の特急リバティに乗り太田駅北口に着くと、美術館の開館まで多少時間があり同館前のベンチで3人トークに花が咲き、開館を待って受付を済ませ写真撮影の許可を受け入館。ラセン状に3階まで伸びた通路壁の図書棚を含め図書室に併設された展示室を1階から3階まで鑑賞。作品については「バベルが見る夢」と題されたその理由について作者自身から「この太田美術館のイメージを発想した作品」と説明を受けたものの、油絵の絵画であるにもかかわらず貼り絵のような感覚も拭えず、個人的には不思議な世界観でした。



さて、建物のことに少し触れてみますと鉄筋コンクリート造の5つのブロック(箱)を繋ぐ鉄骨造りのラセンスロープで組み合わせられ、各階のガラス張りの通路の壁には図書が天井近くまで収納展示され、各階ごとに外のベランダに出られ、芝生に植栽された木々やベンチも設けられていて小さな公園のようなムードあふれる空間がありました。また、最上階の屋上からは太田駅舎や駅北口広場と旧街並みを眼下に望み、遠くは浅間山や秩父連山の山々も見渡せるなど実に環境に配慮された建物と感じました。

また、一階には喫茶コーナーもあり硝子越しに若者たちが読書をしている姿を見ると老朽化して耐震性も乏しい桐生中央図書館を恥ずかしい感さえしました。

さて、美術鑑賞等を11時45分で切り上げ太田駅北口から南口を経て街散歩を兼ね10分ほどで昼食予約をしたイタリアン風の地ビール工房「ダニエルハウス」へ到着。特に女性客が多いのも印象的でしたが、その場で個々に注文を行いサラダ等のバイキングを美味しくいただきました。

帰り足の通り掛けにお茶屋へ寄り店内を見学、太田駅から特急リバティに再度乗車して15時30分には新桐生駅に到着し無事事業を終了しました。

最後に、今回の研修において令和8年事業を検討。

- (1) 春の大川美術館及び県内外美術館訪問
- (2) 地元水墨画の講師を招く初心者向け研修(月一の3回)
- (3) 他の部会との協賛事業
- (4) 必要に応じを会議等

を実施する予定でありますので、ご案内の際には是非ともご参加をよろしくお願いいたします。(関本金三郎 記)

桐生ファッションウィーク参加企画

桐生ファッションウィーク参加企画として、11月8日土曜日、13時30分から15時まで桐生倶楽部会館2階大広間にて、桐生市史編纂室係長小野里了一氏を講師にお招きして、一般市民および倶楽部社員を対象に、無声映画『伸びゆく織都』鑑賞会と桐生倶楽部会館見学会を行